

2023年2月24日
認知症地域支援推進員の機能強化に関する報告会

地域づくりに向け 小さなことからアクション
～地域との協働・機能の連動や統合・行政との連携へ～

神奈川県大和市
上草柳・中央地域包括支援センター（晃風園）
認知症地域支援推進員（兼務）：石毛 幸子

大和市の概要

(R4年4月現在)

人口 : 242,919人

面積：27.09km²

高齡者人口：57,996人

高齡化率：23.87%

要介護認定者： 10,397人

要介護認定率： 17.4%

- ・ 神奈川県ほぼ中央に位置し、都心から40Km圏内。市域は南北に細長く、丘陵起伏がほとんどない。
- ・ 東京、横浜を結ぶ私鉄が3線8駅ある。
- ・ 国道3線、県道4線が縦横に走り、東名高速道路横浜町田インターや海老名ジャンクションも近い。
- ・ 主要産業は第3次産業

「健康都市 やまと」を目指して

「大和市認知症1万人時代条例」（令和3年9月29日制定）

「認知症1万人時代に備えるまち やまと宣言」

「70歳代を高齢者と言わない都市 やまと宣言」



認知症に関する条例の策定

大和市認知症 1 万人時代条例

(令和 3 年 9 月 2 9 日施行)

条例が目指す姿

地域全体で認知症の人やその家族等と価値観や体験を共有しながら、誰もが自らに関わることとして認知症を理解し、それぞれの望む暮らしを続けられる、認知症とともに歩むまち。

※市の認知症の人の推計10,160人（R3.4）

大和市の概要

(R4年5月現在)

- 日常生活圏域 11地区
(民生委員児童委員地区で区分)
- 地域包括支援センター数
9か所 (委託)
- 認知症地域支援推進員数
14人 (市5人・包括兼務9人)

- ・ 市域の北部 (約3分の1エリア) に人口の約半数が居住
- ・ 市全域の高齢化率23.88%
しかし、地区により高齢化率に差がある
- ・ 中央林間地区は、高齢化率が18.59%で市内で最も低いが、最も高い32.31%の和田地区より、高齢者数が多い。

3. 南林間地区
人口 29,061人
高齢者数 7,222人
高齢化率 24.85%

4. 鶴間地区
人口 22,355人
高齢者数 6,010人
高齢化率 26.88%

6. 上草柳地区
人口 15,358人
高齢者数 3,298人
高齢化率 21.47%

10. 福田北地区
人口 14,083人
高齢者数 3,810人
高齢化率 27.05%

11. 福田南地区
人口 22,680人
高齢者数 6,225人
高齢化率 27.45%

2. 中央林間地区
人口 30,507人
高齢者数 5,672人
高齢化率 18.59%

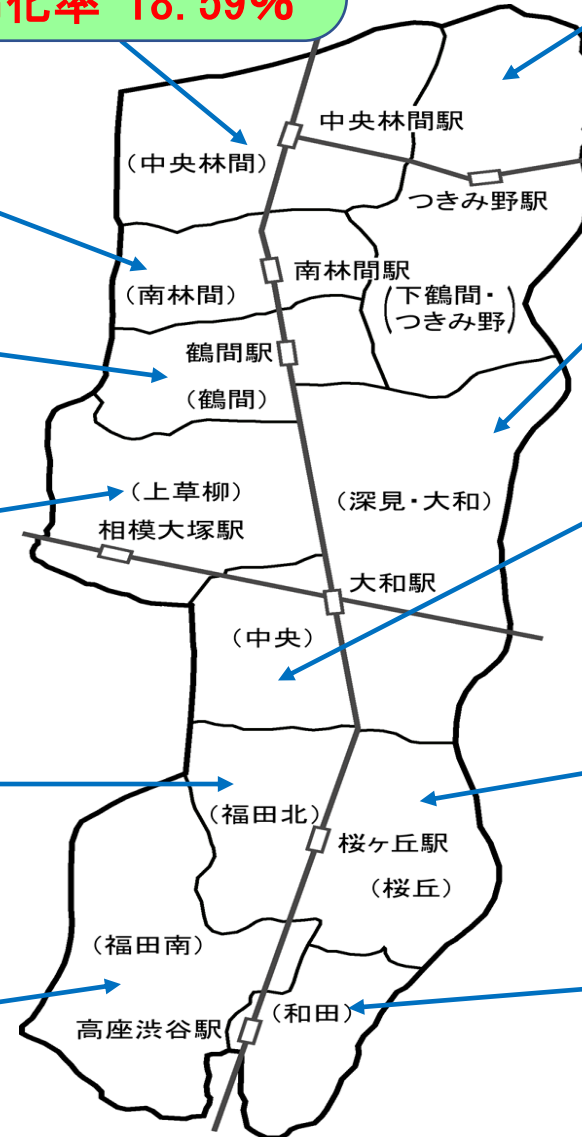
1. 下鶴間地区
人口 40,650人
高齢者数 8,838人
高齢化率 21.00%

5. 深見大和地区
人口 28,758人
高齢者数 5,973人
高齢化率 20.77%

7. 中央地区
人口 17,319人
高齢者数 4,484人
高齢化率 25.89%

8. 桜丘地区
人口 9,795人
高齢者数 2,771人
高齢化率 28.29%

9. 和田地区
人口 12,466人
高齢者数 4,028人
高齢化率 32.31%



みのりカフェ（認知症カフェ） からの出会い



みのりカフェ

OPEN

日程 **7月2日(月)**
時間 **13:30 ~ 15:00**
場所 **デイサービス晃風園「団楽」**
(大和市草柳2-14-2 田辺荘)

お問合せや
お申し込みは…

上草柳・中央地域包括支援センター（晃風園）
電話：046-263-1108
担当：石毛、高井、福濱、井上、沖津



どんなことをしたい？

生活の中にこれまでなかった支障が生じて、
楽しめなくなったこと、あるんじゃないかな…？
その人らしい暮らしは続けられているのかな…？



「お酒を飲んで、わいわい楽しみたいな～」
「昔、マグロ漁船に乗ってたんだ。
釣りにも行きたいな。」



それならば・・・



みのりカフェ de

釣り堀カフェ



日程 4月18日(水)
集合 10:00 晃風園
晃風園から車で出発します。
会場 草柳園(泉の森のとなり)
会費 釣り料金、とれたてニジマス定食代で
ひとり 1,500円

上草柳・中央地域包括支援センター(晃風園)

お問合せや
お申し込みは...

電話: 046-263-1108

担当: 石毛、高井、福濱、井上、沖津



みのりカフェ屋外プログラム ↑

↓ 夜カフェの開催 (法人協力)

よりどころ

KOFUEN 晃風 宴

そこに行けば

わたしの

うれしい、たのしい、大好き。

次回は...9月24日(月) 17:00

(毎月第4月曜日 17:00~オープンです)



まずは一杯。
これさえあれば、ごさげんに。

会費...ひとり300円(よりどころセット)

- ・ノンアルビール
- または ソフトドリンク
- ・おつまみ盛り合わせ
- ・カラオケ(17:30~18:30)

よりどころ 晃風 宴

電話:046-263-8728(晃風園まで)

晃風園は夜もやってます。

お待ちしております。

カフェから飛び出せ！ そこで見た「その人らしさ」

当事者の役割発揮、生きがいづくりの場は？

地域でスタートする高齢者会食会ボランティア説明会に参加！

- ・ 元漁師のSさん。魚をさばくのが得意。
奥様の他界後、一人暮らしも長く、調理も得意。
⇒ならば、是非、会食会の調理ボランティアさんになってもらおう！



得意の料理を活かして よりどころ晃風宴のボランティア



コロナ禍で 人との交流やつどいの場が激減

【認知症のご本人 S さんの地域ケア会議】

テーマ「ひとりひとりが自分らしく暮らし続けていくための話し合い」

参加者：**ご本人**、自治会長、民生委員、認知症サポーター、第2層協議体代表、生活支援C o . 、社協ボラセン、行政認知症施策担当者、担当C M、包括
(合計：16人)



元調理師



元まぐろ漁師

料理も包丁研ぎ
も得意！

地域サロンも認知症カフェもコロナで中止ばかり。Sさんが大事にしている人との交流の場も減ってしまった。
調理や包丁研ぎのボランティアをしていた場も中止になり、楽しみや役割を持つ場の活動もなくなってしまった。
包丁研ぎを活かせる場を作れるといいな…。

認知症の（進行）予防になるから、いろいろなところに出掛けて、誰かとはなしをしたい。
一人暮らしなので、「はちぶんめ（高齢者会食会）」を早く再開してほしいな。



地域ケア会議参加のメンバーが動いてくれた！



ボラセン
地区担当さん

Sさんの、包丁研ぎボランティアの
企画書、作りましたよ～。

実は支え合いセンターでも、もっと地域の人にこの場所を知ってほしい、という課題がありました。Sさんの包丁研ぎボランティア活動の拠点にすることで、お互いにWin-Winの活動になれる！という効果も期待しました。

みんなが喜んでくれるなら、
もっと長生きしなくちゃな～！



ボランティア登録を
してくださったSさん

一本一本
丁寧に。



ご家庭の包丁を研ぎます

【 日 時 】 12月8日(水)、22日(水)
10:00～11:00 ごろ

【 場 所 】 中央地区支え合いセンター

Sさん、突然の引っ越し

⇒Aさんへ バトンタッチ



地域からも喜ばれ、交流の場となっていた活動が継承へ



永年の地域への感謝をこめて
自分ができることがあれば、
恩返しをしていきたい！
地域ボランティアの登録を自ら進んで！

バトンタッチも「出来ることがあれば」と
快諾！

地域ケア会議でご本人の声を聴き、
様々な立場で、それぞれが出来ることからはじめ、
本人と共に創り上げる活動へ。

Sさんの声を起点に始まった活動が、
そこに訪れる地域住民の喜び、楽しみとなり、
共感が生まれたことで、地域に根付いた活動へ。

これにより、Sさんに続き、
Aさんの暮らしを豊かにすることへつながり、
個別支援から地域支援へ。

包括の実績と機能を活用しよう！ 課題と課題をマッチング

条例を周知し、これからは当事者の声を
カタチにしたい！
もっと当事者の発信や声を聴いてほしい！

条例ができたけど、
コロナ禍でなかなか
市民への周知活動ができない…。
条例を作るときに
声をたくさん集めたけど、
実際、どうやって地域への
参画機会を確保していくか…。



〈推進員〉
〈行政認知症施策担当者〉

高齢者の生の声を聴きたい！
想いをカタチにしていきたい！

地域の人達が、
どんなことで困っているか、
どんな暮らしが出来るといいのか、
関係者で検討はしたけど、
生の声って聞けてないよな…。
本当に必要な地域づくりって
何だろう…。
実際にどうやって
進めて行ったらいいんだろう…。



第2層協議体N代表
兼自治会長

包括の実績と機能を活用しよう！ 課題と課題をマッチング

まずは、条例の話を聞いてもらっていいですか？

大和市が目指したい姿を、もっとたくさんの人に伝え、認知症の人たちが、地域づくりに参画できる機会を作りたい。実際の地域の様子はいかがですか？



【第2層協議体N代表のことば】

「地域ケア会議で、今、包丁研ぎをしてきているSさんの話を聞いたときに、『してもらいたい』よりも、他人を気遣う言葉や『こうしたい！』ということばがたくさん出て来て驚いた」

「医療のことは詳しくわからないけど、認知症の人が、人と接する機会をもったり、人の役に立てることをするのは進行を遅らせると聞いた」

【行政認知症施策担当者】

「Sさんの包丁研ぎの活動は、まさに理想のカタチ。もっと、沢山の方が誰かの役に立ちたい、何かをやりたい、という思いを叶えたいと思っている。そういう機会を地域で一緒に考えて、場づくりが出来るのは理想。」

【行政第2層協議体担当者、推進員】

「ご本人たちは、活動の機会を持ちたくても、なかなか発信や参画の機会を持ってない。反対に地域では、第2層の活動として、生の声を聴いてカタチにしていきたいという課題を抱えている。」

「それをつなぎ合わせることが出来たら、お互いの課題の出口になりそうでは？」

包括の実績と機能を活用しよう！ 課題と課題をマッチング

N代表より…

「協議体で発行している情報誌。
自治会員への配布にとどまってい
て、本当に届けたい人たちに届ける
ことができてない。

例えば認知症の人たちが、この
情報誌を必要な方のお宅にポス
ティングするという役割を持つこ
とが叶うようにするためにも、来
年度、うちの協議体の中で

「情報を届けるためのWG」
を立ち上げてみようか！？
当事者の方に活動団体を作っても
らうのがいいのか、とか、いろい
ろ話し合ってみましょうか！」

WGで活動の趣旨を固めたうえで、
認知症カフェの参加者である
認知症の方やサポーターさんと、
情報を届ける活動「ほっこり」を
立ち上げへ。

活動名や、イラストのひまわりの
絵を決めるなど、認知症のご本人
と共に検討。



情報を届ける際の封筒を製作

包括の実績と機能を活用しよう！ 課題と課題をマッチング

行政担当者と悩みを共有し、
「何かできないか！？」という、話し合いの機会づくり。

日頃の包括の地域支援活動などから積み上げた
地域の情報や課題、また多様なつながりから
包括の持ちうる役割や機能を統合、連動へ。
条例を現実の形にする取り組みへ。

地域の中で認知症の本人が役割発揮をし活動に参画する仕組み作りへ。

「課題別部会活動」を通した 行政との取り組み、推進員同士の交流

大和市の「課題別部会活動」は…

- ・ 認知症の人や家族を取り巻く地域課題への取り組み
- ・ 取り組みを担当地域への還元により認知症地域支援推進の向上へ
⇒**認知症施策を起点とした地域づくりを目指す**

さらに…

- ・ 推進員を孤立させないために
- ・ 各推進員との意見交換で学びながら自地域での活動に活かし参考に… ということも込めて

【これまでの取り組み】

令和4年度：

- ①チームオレンジの活動を考える部会 ②若年性認知症の人の支援を考える部会

令和元～3年度：

- ①認知症サポーターの活動を考える部会（チームオレンジの仕組みづくり） ②認知症の人の声を聴く部会
③認知症多職種協働研修部会

平成29～30年度：

- ①認知症の人の声を聴く部会 ②認知症多職種協働研修部会

「課題別部会活動」を通した 行政との取り組み、推進員同士の交流

「チームオレンジ」に関する検討部会で…

取り組み始めた当初、
包括の業務多忙なこともあり、新しいことへの取り組みは
行政も包括も、それぞれの思いの中で、何となくぎくしゃく…



行政の思いは…

「活動のたたき台を準備して臨んでみたけど…」

「本音はどう思っているんだろう…」

「もしかしたら、やらされてる感になってしまった？」

包括（推進員）の思いは…

「ただでさえ忙しいのにできるのかな…」

「初めてのこと。何をやっていったらいいんだろう…」

「もし、活動中に事故が起きたらどうしよう…」



→このままじゃうまく進まない！

お互いの不安や心配を出しあえるよう、部会メンバーの推進員と、
所属のセンター長、行政で、話し合いの場を持ちました

「課題別部会活動」を通した 行政との取り組み、推進員同士の交流

この話し合いを機に、
何でも言い合える空気感が生まれた！



年度が変わり、
部会メンバーの多くが入れ替わりましたが、
新人推進員が多い中、わからないことは「わか
らない！」と素直に言える雰囲気から、意見が
沢山出る様に。

行政と推進員が一緒にやってる感！よりよいものにしていこう！
失敗しても大丈夫！トライ＆エラーでまずはやってみよう！
みんなでやれば、どうにかなるよ！
⇒ステップアップして進められる部会活動に変化



その大きな取り組みのひとつとして、

「チームオレンジへの道！ロードマップ」を部会内で一緒に作成！

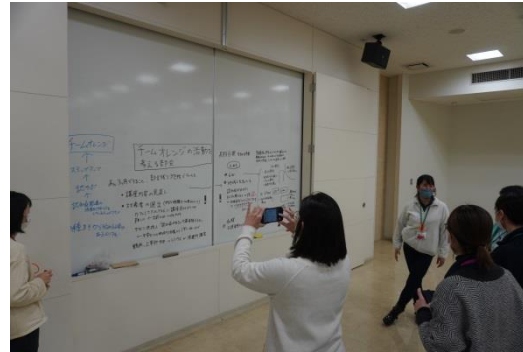
「課題別部会活動」を通じた 行政との取り組み、推進員同士の交流

チームオレンジへの道！ロードマップ

大和市版チームオレンジ 活動目標	認知症がある人の困りごとに焦点を当てるのではなく、 やりたいことや希望を叶えるための活動を行う。
チームオレンジメンバー	①認知症サポーターであり、ステップアップ講座受講済である ②継続的な活動・支援をおこなう ③認知症の本人や家族も参加している
POINT	活動を行うにあたり、チーム作りが目的とならないように注意する。 (本来の目的や、本当の問題点を見失わないように心がける)

ロードマップ

	時期	あるべき姿	活動内容（やること）
長期目標 (最終到達地点) ↑	令和10年度	多様性と共生のシームレスな暮らしの実現のために、チームオレンジの活動が市全体に浸透し、インフォーマル資源として活用されている。	
	令和9年度	チームオレンジの活動が市内に周知され、当事者・家族・地域の対話の場が出来上がっている。	
	令和8年度	当事者や家族がチームの活動に「参画」しており、その活動が市民へも浸透し始めている。	
中間目標 ↑	令和7年度	認知症バリアフリー実現のために、チームオレンジを市民に浸透させるための手段等が明確になっている。	
	令和6年度	市内9エリアでのチームオレンジ活動が活発化している。	
	令和5年度	チームオレンジについて全包括が理解した上で、立ち上げを行う。	
現在	令和4年度	チームオレンジとして2チームの活動が開始され、市全体に展開する仕組み（土台）作りができています	①ステップアップ講座開催 ②チームオレンジ活動開始 ③大和市版チームオレンジの仕組み・土台を考える（要項作成）⇒課題の整理
	令和3年度		
	令和2年度		



令和4年8月に
2チーム誕生
活動開始！



令和5年3月に
更に2チーム誕生へ！！

ご清聴ありがとうございました